

平成 28 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 6 回 会 議 会 議 概 要

◇ 日 時 平成 29 年 3 月 23 日（木） 13：30～14：30

◇ 会 場 県庁 1001 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委 員 井上肇、三浦新一郎、三木潤一、佐藤亜希子、玉谷貴子

（欠席：岡田新一、尾形律子）

〈五十音順、敬称略〉

■委員の主な意見等

議事（1）山形県行財政改革推進プラン（最終案）について

〈発言順〉

（玉谷貴子委員）

- やはり市町村連携が重要だと思う。市町村からの要望も取り入れながら、しっかりと進めてほしい。
- 情報というのは止めないことが重要。県民から活用してもらえるような情報発信を進めてほしい。

（三木潤一委員）

- 事務事業の見直し・改善と行政経費の節減・効率化で 120 億円を達成するには、このプランの着実な取組みというのが鍵になる。プランに沿った取組みを積み重ねて、将来に展望が持てるようにしてほしい。

（佐藤亜希子委員）

- プラン推進に当たって県の事業に関わる人たちを増やすことで、より多くの理解を得ることが大事。一方通行にならないよう情報発信を行うとともに、民を育てて民の力を活用していく仕組みを作り上げてほしい。
- 職員一人ひとりの意思を尊重し、個々がモチベーションをしっかりと保って日々の仕事に当たれるような職場環境の整備を進めてほしい。

（三浦新一郎委員）

- 限られた資源の中で最高のパフォーマンスを如何に発揮するかということが重要。
- 目標を立てた以上は、職員一丸となって徹底して達成にこだわって取り組んでほしい。
- プランの目標の背景にある目指す理念や意義を職員にしっかりと説明し、共通認識を持って取り組んでほしい。

(井上肇委員)

- 県と市町村との連携・協働については、県がリーダーシップを取りながら、各市町村との共同施策や重複した事務の効率化を考えた合理化を図ってほしい。
- 民間活力の活用については、逆に県の職員が民間の力を学ぶことも出来ると思う。

ま と め

(高橋和委員長)

- これからプランを如何に実現させていくかという実行力が問われることになる。それには、プランの理念を県庁の中だけではなく、県民みんなが共有できるように情報発信し、関係性を深めていくことが必要だと思う。
- 良い職場環境で、良い未来を描けるような、余裕のある工程でこれからも行政改革を進めてほしい。

議事（２）平成２８年度 事務事業の見直し・改善について

(高橋和委員長)

- 削減額を次の利益を生み出すための事業にうまく活用してほしい。
- 今後とも最小経費、最大効果を狙って不断の見直しを行ってほしい。

議事（３）その他

(三浦新一郎委員)

- 県と市町村との連携はとても大事。また、市町村同士の連携を促していくことも重要なのではないかと考えている。次の段階ではそういったことも期待したい。

(佐藤亜希子委員)

- 情報発信や市町村との連携がうまく進むと解決できることが多いのではないかと
思う。

(玉谷貴子委員)

- 目標に向かって羽ばたいていこうという気持ちになるようなプランになったと思う。掲げた目標に向かって邁進してほしい。
- 一人の力では出来ないことも、組織を挙げて削減に臨めば、そこから新たな芽が出て来ることもあると思う。

(井上肇委員)

- 新しいまちづくりはコミュニティを大事にしていくことが重要だと思う。その際、コミュニティに関わるボランティアのあり方などを考えることが行財政改革にも繋がっていくものと思う。

(三木潤一委員)

- 関西に住んでいた時には、県政が遠い感じがしていたが、山形では県が住んでいる者にとって身近にあるような印象がある。
- 県の役割は基礎自治体のバックアップということに尽きるのだろうと思う。

(高橋和委員長)

- 将来、日本が直面する課題に対して他県よりも先んじて対応が迫られ、モデルとなるものが目の前に何もない状況の中で、出来る限り知恵を出して、今の時点で最善のプランになったと感じている。
- このプランからは、財政が縮小する中で、単に事業縮小ではなく、県と市町村の関係を見直し、新しい地方自治のあり方を作り上げようとする意気込みが感じられる。

以上